

新型コロナ 薬「パクスロビド」は後遺症を減らす？

2022年11月21日毎日新聞

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の患者に対し、抗ウイルス薬の「パクスロビド」（一般名ニルマトレルビル・リトナビル、日本での商品名パキロビッドパック）を使うことで、入院率と死亡率を下げられるのに加え、さらに後遺症にかかる可能性も減らせる。こんな研究結果を、米VAセントルイス・ヘルスケアシステムの Ziyad Al-Aly 氏たちが発表した。ただし、まだ査読前（他の専門家にチェックを受ける前）の段階だ。内容は、査読前の論文を集めて掲載しているウェブサイト「medRxiv」に11月5日に発表された。Al-Aly氏は、「この薬が、深刻な後遺症問題に対処する重要な手段となる可能性がある」と述べている。

パクスロビドは飲み薬で、新しい抗ウイルス薬のニルマトレルビルと、既存の抗HIV（エイズウイルス）薬であるリトナビルの合剤だ。過去の臨床試験で、新型コロナ患者が急性期に飲むと、重症化する可能性を下げられるとの結果が出ている。

Al-Aly氏は今回、米国退役軍人省が持つ新型コロナ患者のデータを使って、患者が急性期にパクスロビドを飲むと、診断から90日後に後遺症にかかっている率が下がるかどうかを調べた。

同省のデータでは、2022年3月1日から6月30日までに、新型コロナ陽性だと検査で判定された患者が、約6万8000人いた。

この中からまず、診断されてから5日以内にパクスロビドを飲んだ患者で、以下の3条件などを満たす人、9217人を選んだ。

（1）診断されたその日には入院せず、外来で治療を受けた。（2）新型コロナが重症化する要因を一つ以上持っていた。（3）診断された日から30日以上生存していた。

一方で比較のため、パクスロビドを飲まなかった患者、4万7123人のデータを調べた。この人たちは以下の条件を満たしていた。

（1）診断から5日以内にパクスロビドを飲まず、また、診断後30日以内に、他の抗ウイルス薬や抗体による治療を受けていなかった。（2）診断されたその日には入院せず、外来で治療を受けた。（3）新型コロナが重症化する要因を一つ以上持っていた。（4）新型コロナと診断された日から30日以上生存していた。

結局、データを調べた患者の合計人数は計5万6340人だった。平均年齢は65.07歳で、うち白人が74.59%を占めた。男女別では男性が87.64%を占めた。

後遺症12種類の「どれかがある」率が低下

診断から90日後の状況を調べると、パクスロビドを飲んでいていた患者は、飲まなかった患者に比べ、「後遺症がある」率が低かった。（ハザード比0.74、95%信頼区間0.69・0.81）。後遺症の発症率は、飲んでいていた患者で100人あたり7.11人、飲まなかった患者で同9.43人だった。

なお、ここで「後遺症がある」とは、以下の12種類の病気のどれか一つ以上を新しく発症していた場合を意味する。虚血性心疾患、不整脈、深部静脈血栓症、肺塞栓症、倦怠（けんたい）感、肝疾患、急性腎障害、筋肉痛、糖尿病、神経認知機能障害、息切れ、せき。

症状別に見ると、飲んでいていた人たちは、飲まなかった人たちに比べ、12種類のうち10

種類の後遺症にかかる可能性が、有意に（統計的に偶然ではないほど）低かった。一方、「せき」と「糖尿病」が後遺症として残る率は、飲んでいてもいなくても、有意な差はなかった。飲んでいた人たちはさらに、死亡と入院のリスクも低かった（ハザード比は死亡リスクで 0.52、入院リスクで 0.70）。

Al-Aly 氏たちは査読前論文で「全体的なエビデンス（医学的証拠）が示唆しているのは、『重症化予防に加え、急性期後に健康が損なわれるリスクを下げるためにも、急性期にパクスロビドを使う率を上げる必要がある』ということだ」と述べている。

パクスロビドは 12 歳以上の患者が使える。「発症から 5 日以内に使うのが最も効果的だとされるが、薬の使用量や使用日数を増やすことで効果が変わるかどうかは分かっていない」と、米テレビ局の CNN は報じている。米国立衛生研究所（NIH）は、後遺症患者を対象にして、パクスロビドの効果を検討する研究を実施する予定だという。

（HealthDay News 2022 年 11 月 7 日） Copyright © 2022 HealthDay. All rights reserved.